パピロニアとヘレニズム「ディアドコイ年代記」

<table>
<thead>
<tr>
<th>項目</th>
<th>内容</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>著者</td>
<td>田中 穂積</td>
</tr>
<tr>
<td>雑誌名</td>
<td>人文論究</td>
</tr>
<tr>
<td>巻</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>号</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>ページ</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>発行年</td>
<td>1998-02-20</td>
</tr>
<tr>
<td>URL</td>
<td><a href="http://hdl.handle.net/10236/5759">http://hdl.handle.net/10236/5759</a></td>
</tr>
</tbody>
</table>
バビロニアとヘレンズム（三）

はじめに

アレクサンドロス大王の没後、ディアドコイ時代にはいると、バビロニアは、とりわけ、アネメネス、セレウコスたちの抗争の場となり、最終的にセレウコスの支配下におかれた。ここに取り上げる、いわゆるディアドコイ年代記とは、主にバビロニアにおけるアッカダ語楔形文字タブレットに書かれており、プリティシェリュ・ミュージアムに所蔵されている。これらタブレットには、A・K・グレイスンの校訂がみられる。

このディアドコイ年代記は、かなり破損していて、断片的な内容となっている。年代に関しては、二人の王、それぞれにアネメネスの年代がみられる。二人の王とは、アレクサンドロス大王（三世）と、大王の没後年に生まれた、子のアレクサンドロス（三世）である。それでは、改名して王となったアテノス（三世）と、大王の没後に生まれた、子のアレクサンドロス（四世）である。その基礎を築くために、この年代記にみられる複雑な年代の用い方は、当時の混乱した政治、社会を反映した表現と
いえよう。
ところ、この「ディアドコイ年代記」が、表題にあげたバビロニアのヘレンズム問題を論じる直接の手掛かりで
はないと、ヘレンズム時代初期のバビロニア事情がどうかしら。主要な史料であることから、ここに取り上げることに
した。もちろん、アレクサンドロス大王以後のバビロニア側の史料としては、この年代記の他に、王位年代の記録、
天体観測記録、経済文書など、アッカド語の楔形文字史料が知られている。これらについては、本論で関連する際に
及ぼすことにする。

「ディアドコイ年代記」、最初のタグレットBM 34660の冒頭は破損していて、年代は不明である。しかし、続く
部分からみて、冒頭部はバリポッポスの四年（三三〇／三九）の記録とみて差支えないよう。行目において、
「アイヤルの月、王はエジプトのサトラップと戦った……」とあり、ここでは、かなり具体的なことが知られる。つまり
このことは、ギリシア・ローマの古典文献から知られている。そこで、この時期にいたるディアドコイの動向を、
アレクサンドロス大王が没したとき、友誼軍（ヘライオイ）の指揮者として、大王に次ぐムケドニア軍司令官
の地位にあったのは、ペルディッカスで、かれは大王の後継者を選ぶ優位な立場にあった。これに対して、歩兵密集
隊（パルニクス）を掌握したメレアグロスがバリポッポスを抱き込み、ペルディッカスを陥れようとした危険を察し
「アレクサンドロス大王史」を書いた二世紀初頭のクルティウス・ルスは次のように描写している。

ペルディッカスは、バビロンの町を出た。しかし、ペルディッカスが巻き返しをはかったので、事態は、いつそう混乱した。この時、バビロンの状況は「アレクサンドロス大王史」で記載されている。

一方、都市内のものは、家々や村々が禁断を越えていた様子は、都市の外へ出ようとしたことがあった。お互いに、他のものの居住地が自分たちのものであるからだと考えていた(3)。

これは、当然の見方で受け入れてよかった。ペルディッカスは、メレアグロスの歩兵密集隊における不人気に乗じて、歩兵密集隊を掌握し、そして王を擁して、メレアグロスを死にいたらせた。ペルディッカスは、王の名において、つまりディオドーロスによれ
3 タブルト表面
4 アイヤルの月、王はエジプトのタブルトと戦った。アラクサムヌの月、十（x）日に
5 王の軍隊は、王の軍隊を殺害した。アラクサムヌの月、十一月である。
6 アッカドのタブルトはバビロンに立った。その同じ年、エサギルの月、瓦礫は
7 取り除かれた。
ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペルセット王の政体は劣弱、かれに対する反抗が表面化した。その一つは、アレクサンドロス大王が没し、ペル셋
ピリポスの第五年。月は不明。王
アンティゴノス
アンティパトロス
ピリポスの第五年は、前二九／一八
年である。7〜9行で、アンティゴノス、セレウコスの他にアンティパト
ロスの名が考えられる。そして、攝政となったアントパトロスのマケドニア
への帰還が推定される。炎上するにつ
いてはマケドニアにおける出来事かも
れないが、不明である。

10〜13行のピリポス五年（前二九
/一八）についても、よく分から
ない。アッカドの軍は、セレウ
コスの軍と、あるいは
アッカドの全軍とは、セレウコ
ス。また、かれの軍隊である。
12行目までは、セレウコスの行動を
取り上げている。

パピロニアとヘレニズム（）
アッカドの支配者は華の家を築き、...

ビリッポスの七年、二年より六月にあたる14〜17行は、エウメネーとセレウコスの衝突であろうか。デイオドローソスによれば、アンティゴノスの勢力を恐れたエウメネーは、セリーサから、メソポタミアに入り、王の軍隊の指揮者である conhe (コンテ)。この出来事について、デイオドローソスは、二度述べている。

ゴールのように、タシミリトゥの月（十月）頃、エウメネーがバビロンを占領し、セレウコスが追い出されたような表現が取られている。そして、このあと、18行目でアンティゴノスがセレウコスに迫っているようである。

ビリッポスの第八年（前三〇年）、この年にはビリッポスは生存していない。かえの没時は、前三〇年、
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
アラクサヌスの月、親善と
17行目のあと、3行程度の欠損がある。そのあと、次にあげる21行目以下は、タブレットBM 36313で、裏面の

タブレット裏面

ダヴラット

アンテイゴノスは反撃した。

エサギルと...

カンディギノスは多勢の軍隊をもって...

入った。その月の八日前から...

アレクサンドロスの第七年における、天体観測の記録と同様の表現である。

地上には、悲嘆と哀痛が。南風...

パビロンから出ていった。かれは、都市と田舎を略奪した。所有物...

第二日、かれはクタに行った。そして...

人々は避難した。かれは...

ネルガルの財庫に火をつけてた。

八年の時期の出来事とみてよかろう。最初の欠損部分に、天体観測記録にみられるような、アレクサンドロスの第八年、つまり前三〇九年にみられる。

ノミの息子の第八年、セレウコスが將軍であった。という見出しがあったとおもわれる。

つまり、先にあげた、
バビロニアとヘレニズム（二）

バビロニア人のものともかかった行動であるが、セレウコス、あるいは他の者であろうか、判然としない。しかし、バビロニア人のもとでは、この年の年には三〇〇八・七年である。35-38行は、ポルシッパへ行き、そしてバビロニアの軍隊に

アブの月、二十五日？（・・・・）セレウコスの軍隊の前との戦い（・・・・）

欠損

39

41

42

43

 SHARE

悲涙と哀痛が地上に（・・・・）かれば都市と田舎を略奪した。（・・・・）

タブレット（BM 34860）左側面

戦闘がなおも続いている。おそらくセレウコス側とアントイゲノス側の戦いであろう。左側面にみられる、アントイゲノスの軍隊、アブの月（七ー八月）、セレウコスの軍隊の前における戦い、等の表現は、前三〇〇八年、八月半に

なお、42行目「王はバビロニア人に」に、について、これらを、セレウコスの最初の年と読み、そして、王をセレウコスと解釈し、42－43行を、アレクサンドロスの第九年では